



さくくら RA

April

4月.2017

発行/ボーイスカウト世田谷第5団広報部

3月12日 入団説明会 ビーバー隊/秘密基地づくり

ビーバー隊

隊長 草嶋隆行

団行事の入団説明会に合わせて、多摩川の河川敷で秘密基地づくりです。私は隊長としてまずは説明会に行きました。玉堤地区会館という駅からはやや離れた場所にも関わらず、大勢の方がいらして椅子が足りなくなるほど！一時間弱での説明会の後、現場を見てもらいましょう、ということで私も現場へ。

ん？誰も秘密基地やってないぞ？！そう、スカウト達は秘密基地の作り込みはそこそこにめいめいで遊んでいました！一方で入隊前の子供達が一生懸命やってくれたのでまあいいか。。。その後ゲームをみんなで楽しんだ後、ボーイ隊のテントやベンチャー隊の料理などを楽しみました。

仲間がいっぱい増えるといいね！



カブ隊/ドッジボール、ゲーム

副長 中村静香

毎年恒例団行事の餅つき大会が残念ながら今年から無くなり、玉堤地区会館での入団説明会のみになりました。カブ隊はそれに伴い多摩川河川敷でゲーム大会を行いました。途中から入団説明会に来てくれた子供達5人を交えて三種類のゲームを行いました。最初はボール挟みゲーム。二人一組で向かい合わせになってビーチボールを胸に挟み、手を使わないで数メートル先で折り返し帰ってくるといった内容で速さを競います。いざやってみるとボールを落としたり手を使ったりと難しかったようです。

ロープを使ったゲームは、二人一組でロープで輪を作り二人中に入り手を頭に置いて引っ張りながら進み速さを競います。一番盛り上がったのはドッチボールでした。時間の関係で途中で切り上げ、ボーイ隊のテントの中に入ったりカレーとパンをご馳走になりました。

競争を競うゲーム二種類共2組が勝利しました。

今年もボーイスカウトに興味をもって頂いて沢山入団することに期待します。

2組しか

見学の人が来て、嬉しかったです。新しい人が、たくさん入って欲しいです。手作りのカレーライスとパンが美味しかったです。あと、ボーイ隊の人がテントを作っていて、すごいと思いました。僕もボーイ隊になったらテントを作りたいです。

1組うさぎ

今日は僕はドッチボールでボールをキャッチできないし、あてることもできなくてただ中の人にボールをわたしていただけですけどぼくはそんなことでもたのしかったです。

ビーバー隊

3月26日 お別れハイク

ビーバー隊

隊長 草嶋隆行

3月末とは思えない意表をついた氷雨となったため、当初の三浦富士ハイクは中止とし、雨プロとして予定していた記念艦三笠にまず向かいます。横須賀中央までは順調に着いた後、いやな感じの大行列発見！スプリングフェスタというのが行われていることは把握してましたが、三笠でお弁当食べた後にちょっと覗けるかな、程度に思っていたら大甘で、この何人いるかわかりませんが千人二千人はいそうな行列に並ばないと三笠公園にも入れないとのこと。急遽観音崎に目的を変更し、バスで向かいます。天気がいいととてもステキな眺めの観音崎公園ですが、雨なので誰もいません。か、お弁当食べる屋根付の場所を確保し、昼食後イチゴ狩りに向かいました。

下見の時には30分1500円、持ち出しなし、再入場不可という強気の条件に驚きましたが、心身ともに冷えたカラダにはハウスの中は天国！そして、イチゴも練乳がいらないくらいの甘さ！すっかり元気になって帰ってきました！

今年は隊長としての初年度でうまくいかないところもありましたが、副長や保護者の方々のサポートで何とか終わりました。来年度も宜しくお願いします。



カブ隊

3月26日 ゲーム、ロープ、お別れの会

副長 清水恵子

3月26日、「歩くぞ！」が年間テーマの今年度の最後の活動はお別れハイクを予定していましたが、一日通して雨、しかも季節はずれに寒いとの予報にやむなくハイクは断念。室内でゲームや歌、ロープ結びを楽しみました。おなじみの背中文字リレー、キムス、結び目作り、もやいのガンマンですが、スカウトたちはいつも以上に真剣に取り組み、その盛り上がりといったら、一年間いっしょだった組の仲間と過ごすのは今日が最後だから、なのかなあ。

最優秀スカウト賞は3組組長の舟橋くん。最優秀組賞は2組に授与され、その賞は来年一年間、ディフェンディングチャンピオンの組旗を飾ります。セレモニーでくまから組旗を手渡されたしつかスカウトの笑顔、いつの間にかたのもしい。

うさぎたちもすっかりカブらしくなりました。スカウトそれぞれの成長を感じて、一年が終わりました。

育成会の皆さま、団と他隊の方々にはなにかとお世話になりました。

来年度もカブ隊、いつも元気！にがんばります。



1組 DL 白井康裕

3月26日(日)は今季最後の隊集会でした。思い出の多い一年間の締めくくりに、ゲートブリッジへの「お別れハイク」が予定されていましたが、残念ながら天候に恵まれず「雨の冬日」となって中止。代わりに尾山台小学校のオープンスペースでの活動となりました。歌を歌い、ゲームを楽しみ、ロープの結び方の班別競争など、悪天候にも負けず賑やかな時間を過ごしたのです。

そして、お別れハイクが実施された場合に最後に予定されていた「終わりの式」は、天候にかかわらず予定通り行われたのです。今年度の締めとして最優秀賞が発表され、組賞では2組が、スカウト賞では舟橋君が表彰されました。お別れセレモニーでは、くまスカウト、デンリーダーから挨拶があり、組旗が後輩に引き継がれたのです。4月2日(日)に予定されている団行事で再び会える人、会えない人もいますが、ひとまずはお別れです。

私もデンリーダーという初めての経験をさせていただき、さまざまな発見をスカウトたちから学びました。自立し自律する人間を育成するというボーイスカウトの哲学に触れた一年間は、とても貴重でした。そして、その理想のため頑張ってくださっている指導者の皆さまの無私の行動には、ただただ頭が下がる思いです。この場をお借りして御礼を申し上げます。

3組くま

この日は残念ながら雨で、ハイクはできず雨プロになってしまったけど、最後にみんなと楽しく活動することができてよかったです。

僕が今回の活動で一番うれしかったことは、最優秀スカウトに選ばれて、表彰されたことです。最優秀組にはなれなかったけど、最優秀スカウトになれただけでもうれしかったです。次はボーイスカウトなので、今以上に気を引き締めて、みんなの役にも立てるようにがんばりたいです。

1組うさぎ

今日、雨でお別れハイクができなくて、ちょっと残念でしたが、室内でのゲームも楽しかったです。ロープ結びゲームが私にとって、一番面白かったです。最初、ぼくがうまくできましたけど、2回目は3つしかできなかったから、凄く悔しかったです。今度、しかになって、僕がもっと頑張りたいと思います。



ボーイ隊

3/18~20 第30回

シルバーウルフトレーニングキャンプ

@八王子 ひよどり山キャンプ場

BS隊 副長 保科 潔

3月18日(土)~3月20日(月・祝日)2泊3日の訓練キャンプに5団から6名参加しました。私は隊スタッフ、副長でした。3月5日(日)事前隊集会でタイガー班、シルバードック班、フクロウ班、オオカミ班、を作り班長、次長が決まりました。世田谷地区のSWTCも今年で第30回を迎える事になりました。普段交流の少ない他団のスカウトと交流する良い機会でも有り、また競争する場でも有ります。グリーンパーに必要なリーダーシップを身に付ける良い機会に成りました。1日目は班サイトと立ちかまどを作り、21時30分まで、ひよどり山の風に負けずに講義を受けました。2日目は大型構築物、信号塔を全員で2つ作りました。営火と各班ハイキング企画発表会をしました。3日目は今回キャンプの評価反省と撤営、閉会式をしました。今回のキャンプで良かった点は、5団、近藤君がオオカミ班の班長として活躍、最優秀班に成りました。他の5人も持ち味を出して各班に貢献していました。悪かった点は、事前隊集会の前までに参加者全員2級にしたかったです。ケガ無く自宅まで帰れて良かったです。5団スカウトは、日々成長しているを実感しました。

BS隊 オットセイ班 草嶋優太

来年度班長となる身として初めて参加した今回のSWTC。2日目からの参加ということで、一日分を取り返さなければならない分、僕は気を引き締めて挑んだ。事前説明会にも行ってないため、班員とのコミュニケーションが上手く出来るか心配だったがシルバードック班の明るい雰囲気+共同作業の進めていく中で自然と会話を取ることが出来たお陰で良い意味で僕の緊張も解れ、楽しく二日間を終えることができた。さて、中身の話に入りましょう。5団はスキルが少ないと自負しているので、SWTCで学んだことを持って帰らなくてはと言う任務が僕にはあった。中でも信号塔の制作は今まで経験したことがないので、とてもためになる経験だと思った。また、技術面だけでなく、今回改めて班員という立場で参加したことで、班長から出る指示の班員のneedsもわかったので、これから班長になる上で班員にどのような指示を出すべきなのかがよくわかった。指示する上で名前をきちんと言い、支持の内容を簡潔かつ分かりやすく伝えることが重要だと思った。今回の学習の成果が次の班キャンプに結果としてよく出ると思うので、班員への指示に気を付けてなんの問題もなく楽しく班キャンプを終えたい。



BS隊 トナカイ班

3日間のキャンプ中、最も大変だった事は火おこしです。火おこしは毎食行うものなので毎回火おこしの準備がとても大変でした。時には米に火が完全に通っていかなくてかたい時もありましたが、班全員で作った食事はとてもおいしかったです。

今回のキャンプを通じて、火おこしは木材はできるだけ湿らせず前の日のうちにブルーシートでおおっておくことが重要だとわかりました。

BS隊 トナカイ班

初参加の地区キャンプで緊張しましたが、班の雰囲気良かったです。すぐに馴染むことができました。

シルバーウルフのキャンプではより良いグリーンパーになる訓練をしたので、必要な経験が多くできたと思います。

また、食事作りは勿論、信号塔作りなどもしたので、グリーンパーとしてもスカウトとしても成長できたキャンプだと思います。

BS隊 オットセイ班

僕は3月18日~20日のシルバーウルフキャンプに参加しました。

班のメンバーは、他の団のスカウトばかりだったので、最初はあまり協力する事ができず、ご飯などを作るのが遅くなってしまいました。信号塔をみんなで力を合わせて作り、打ち解ける事ができたので、食事の準備もとても早くなった事が一番嬉しかったです。僕はこの事から、何事もみんなで協力すれば成し遂げられるということを知る事ができました。他にも、グリーンパーになる為に必要な事をたくさん学ぶことができて良かったです。これからの活動では、今回学んだ事を生かせるように頑張っていきたいと思います。班で協力する事を大切に、一つ一つの物事を、なぜそうしなければいけないのかをきちんと言えるような班長を目指したいです。リーダーの皆さん、ありがとうございました。

BS隊 カモメ班

今回、僕はSWTCに1日遅れで参加しました。僕たちがついてすぐモーニングゲームが始まり、信号灯を作り、おいしい夕食を食べました。僕は、オオカミ班の班長をやっていました。

班のみんなが指示に従ってくれて信号灯もうまく立てることができ、最優秀班賞を取ることができて良かったです。

このキャンプで一番大切なことは、仲間と団結することです。

それさえあれば、このキャンプで必ず良い結果が出せます。

違う団の仲間と協力、団結するという5団のキャンプとは違うこのキャンプ、ぜひ行ってみてください。



ローバー隊

RS隊 隊長 渡口要

シャーロック・ホームズ

　B-Pとシャーロック・ホームズ、そしてアインシュタイン ―観察と推論― (第2回/全8回)

　ひとつ予言をしましょう。今年2017年のノーベル物理学賞は「重力波の直接観測」に対して与えられます。さあ、10月の発表をお楽しみに！

（つづき）

3. 「みる」こと

　さて、ここで「観察」についてもう少し深く考えてみましょう。観察とは「見る」ことです。葉っぱを見る。テレビを見る。事件現場を見る。見ることによって、私たちはこの世界の様子や出来事を把握します。では、同じモノや同じコトを見れば、誰でも同じように世界を把握できるでしょうか？

　そんなことはありません。同じモノ・コトを見ても、人によってそこから得られる情報は違ってきます。例えば追跡記号 (trail sign) を考えてみましょう。ボーイスカウト経験の有る人と無い人がいたとします。この2人が石で作られた同じ追跡記号を見たとき、スカウト経験者はそこから進むべき道や目的地までの距離などを把握できます。他方スカウト未経験者はそれを見てただの石ころか、または変わった石ぐらいにしかならないでしょう。あるいは、そもそもスカウト未経験者はその追跡記号に気付くことすら出来ないかもしれません。

　このような例は無数にあります。鳥や植物の名前を知識としてたくさん知っている人は、知らない人に比べて自然を見たときの見え方がずっと豊かであるはずです。葉草の見た目と効能を知っていれば、野外で怪我したときに役立ちます。知らない人は、怪我をしたときに葉草を見ても役にたられません（葉草だと認識することすら出来ません）。映画に詳しい人は、詳しくない人に比べて映画を見たときに多様な楽しみ方をすることが出来ます。もっと言えば、普通の人が気付かないような映画の細部に気付くことが出来ます。だとすれば、同じ映画を「見よう」としても実際に「見た」ものは随分違ってくるはずです。

　映画のような芸術作品の場合、知識量によって「見る」の中身の濃さが変わってきます。このような場合の「みる」を「観る」と書くことがあります。「観賞」あるいは「鑑賞」と言ったりもします。また、芸術作品を豊かに観るために必要な能力を「鑑賞眼」と呼んだりします。鑑賞眼という言葉が意味しているのは、芸術作品についての知識が有る人と無い人とは、もはや持っている「眼」自体が違うのだ、ということです。持っている眼が違うのだから、当然同じ作品を見たとしても違う風に観えるわけです。

　再びホームズの例を考えましょう。ホームズは、ワトソン（普通の人の代表）が見ても何も感じない事件現場を「観る」ことで、事件の手がかりを発見します。それは、ホームズの持っている豊富な知識によって可能になります。このように、持てる知識を総動員しながら対象を徹底的にみることを「観察」と呼ぶわけで

す。これは、芸術における鑑賞に似ています。鑑賞眼に対応して「観察眼」という言葉もあります。ホームズはワトソンには無い鋭い観察眼を持っているわけです。

　さて、以上のようにして「観察」について考えてみると、あることに気がきます。観察（あるいは鑑賞）は知識に依ってその豊かさが変わります。ということは、観察の前にまず知識があるということになります。しかし他方では観察に依って知識を得るということを考えると、知識は観察の後にもあるはずです。観察と知識がぐるぐる回っているわけです。

　このようなことは、哲学の世界では「観察の理論負荷性」と呼ばれています。その中身を詳しく説明することはここではしませんが、観察というものは理論（知識）抜きには成り立たないということだけを知って欲しいと思います。先月のさくら2017年2月号の言葉を使えば、観察という実践には理論が必ず付きまとうということです。理論を知ることの良い観察が出来る、ということを手言っているだけではありません。そもそも原理的に、観察（実践）は知識（理論）に依存しているということが重要です。

　逆に言えば、知識抜きの純粋な「観察」というのはあり得ません。まっさらな状態で世界を「見る」こと、これを「感覚所与」とか「センスデータ」とか言ったりもしますが、そういうものは無いんですね（こころ辺の哲学議論は近年になっても続いています。気になるスカウトは勉強会等で訊いてください）。つまり、ホームズが事件現場を観察するときや、ズールー族あるいはB-Pが自然を観察するとき、さらには映画好きが映画を鑑賞するとき、実は知識「によって」観ているのです。

　もう1つ身近な例を挙げましょう。「みる」の漢字として医の世界では「診る」や「看る」が使われます。それぞれ、医者が「診断する」とき、および看護師が「看護する」とき、これらの字を使います。もちろん、「診る」あるいは「看る」ときにも知識がセットになっていることは言うまでもありません。

　2017年1月のBSスキー訓練2日目の朝、参加していたベンチャースカウトのI君がスキー中に足を痛めたので我々リーダーのところに来ました。今回のスキーには幸いなことに三園CS副長が来てくれていたため、適切な診断を下してもらえました。三園CS副長は接骨院のお仕事をされているのです。

　そのときの怪我は、見た目にはそれほど腫れていたわけではないので、素人がパッと「見た」だけでは良く分かりません。足が折れて変な方向に曲がっていれば、誰でも「見る」だけでおかしなことには気付けるでしょうが、そうでは無かったのです。三園CS副長は患部を眼で観ながら、手で触ったりちょっと足を曲げてみて痛いかどうかI君に訊いたりすることで、怪我を「診た」のでした。このようなことが出来るのは、人体の構造や骨や筋肉についての知識を三園CS副長が持っていたからです。

　以上で挙げた例以外でも、「みる」ことのプロフェッショナルはたくさんいます。スポーツ選手はどうでしょうか？料理人は？ミュージシャンは？株のトレ

ーダーはどうでしょうか？法律家は？こうして挙げしてみると、プロフェッショナルとはある種の「みる」能力を高めた人だと言うことも出来そうですね。B-Pがなぜ「観察」をスカウトの高めるべき能力として重要視したのか、こう考えてみるとよく分かるのではないのでしょうか。

4. 科学者にとっての「みる」ことと「はかる」こと

　さて、探偵や斥候や映画好きや医者が、観察したり鑑賞したり診断したりするときはどうやって対象を「みて」いるのか大体分かったところで、もう1つ観ることについてのプロフェッショナルの例を紹介したいと思います。それは、科学者です。

　すでにホームズが科学捜査の先人だと紹介した時点で予告されていましたが、科学において観察はとても重要です。近代的な科学はアイザック・ニュートンの17世紀の活躍に始まりますが、ニュートンは木から落ちるりんごや空に浮かぶ月や星の動きを良く観察し、さらに、深く推論することによって、運動の理論（ニュートン力学）および重力理論を発見しました。ただしニュートンの偉大な発見は、それ以前のニコラウス・コペルニクス、ティコ・ブラーエ、ガリレオ・ガリレイ、ヨハネス・ケプラーらの業績があってこそのもです。特にブラーエは観察の天才でした。彼は望遠鏡がまだ無い時代に、肉眼による（！）恐るべき精度の膨大な天体観測の記録を残したのです。後、ケプラーがブラーエの天体観測の記録を分析し、ケプラーの3法則にまとめました。そしてその法則に対してさらに推論を加えようとしたことが、ニュートンの発見につながっていったのです。

　そう、ニュートンは深く推論したのです。彼は観察の天才である以上に、推論の天才でした。ニュートンが運動と重力についての理論を発見する過程において、ニュートンの頭の中で実際に起こっていたことは、観察と推論（と知識）が入り混じった試行錯誤であったはずです。さもなければ、自然を見渡した時に得られる情報は多すぎるため、ニュートンは理論を作る（発見する）上で何が重要で何が重要でないか分からず、パニックになってしまったでしょう。これはホームズの場合も同じです。事件現場にある様々な情報の中から重要なものと重要でないものとを区別するためには、観察と同時に推論を行わなければいけないはずです。つまり、観察の後に推論あるいは推理が始まるのではなく、観察する時点で推論あるいは推理もまた始まっているのです。

　推論が観察に影響を与えながら試行錯誤がなされている状態を「推察」と呼んでも良いでしょう。「推し察る（おしはかる）」とも言います。良き科学者、良き探偵、良き鑑賞者、そして良きスカウトとは、それぞれの舞台上適切に推察できる存在であると言うことができます。

　科学者が自然について推察を行うための素晴らしい方法として「実験」があります。科学の舞台（対象）は自然なので（このことをハッキリさせるために「自然科学」と言うこともあります）。科学者は自然の中で起こっている月の満ち欠けや天体の運動や虹の現象などを良く観察してさえいればそれで良さそうに思われます。実際、コペルニクス、ブラーエ、ガリレオ、ケプラー、そしてニュートンもそうしました（ガリレオ、ケプラー、ニュートンの3人は、それぞれガリレオ式、

ケプラー式、ニュートン式と呼ばれる望遠鏡を発明しています）。しかし、自然で起こることには様々なノイズ（邪魔）がつきものです。りんごが木から落ちる現象を例にとると、風や空気抵抗の影響がノイズになり得ます。あるいは、落ちるスピードが速すぎるため、時間を計って落ちる様子を記録することが難しく、上手いかかないかもしれません。これもノイズです。

　そこで、科学者たちはそのようなノイズをなるべく取り除いた状態を人工的に用意し、その状態で「自然に」起こることを観察します。これが実験です。こうすることで、ノイズに悩まされることなく、上手に観察することが出来るのです。例えばガリレオは、工作によって傾斜角度を変えられる坂を作り、球をそこで転がしてその様子を観察しました。坂の傾斜角度を小さくすることで、球の転がるスピードを遅くできるので、りんごが木から落ちるスピードが速すぎる、という問題を解決できたのです。

　ただし、1つ重要なことを見落としてはいけません。いったい何がノイズで何がノイズでないか自体が、実験をする時点で分かっていることが多いということです。先ほど、ホームズが事件現場の情報の中から重要なものと重要でないものとを区別するためには推察が必要だと言いました。実験におけるノイズもこれと同じです。もっと言えば、何がノイズで何がノイズでないか、何が重要で何が重要でないかを決定すること自体が実験の目的なのです。もしある実験が上手くいかなかったとしたら、科学者は実験条件や実験装置を変更して再チャレンジします。あるいは失敗した理由を考えます。実験におけるこのような変更や試行錯誤そのものが、推察の役割を果たしているのです。「失敗は成功の母」という言葉が意味しているのは、大体においてここに書いたようなことだと思えます。

　実験は、事件捜査でも行われます。再現実験というやつです。事件（や事故）当時の状況を再現して、その時その場所で何が起きたのかを推察するのです。例えばシドニー・ルメット監督の映画『十二人の怒れる男』や周防正行監督の映画『それでもボクはやってない』では、再現実験による事件の真相の推察シーンが出てきます。もちろん、ホームズや『名探偵コナン』にもこのようなシーンはたくさん出てきますね。再現実験のとき、どこまで本物の事件を再現するべきか？被害者や容疑者の身長・体重は再現するべきか？着ていた服の色は？当日の天気は？時間は？こういったことを試行錯誤して、「容疑者の身長がトリックによって決定的に重要だ」ということが分かったならば、それはすなわち事件の謎が解けたのと等しい場合が多いわけです。

　科学にとって観察や実験が重要であることを説明してきました。それでは、観察や実験によって科学者が情報を得るとき、具体的には何をやっているのでしょうか？一言で言えば、それは「はかる」ことです。

　「はかる」には「みる」と同様な漢字があります。測る、計る、量る、図る…先ほども出てきたように、「察る」とも書きます。これらの中で、科学にとって特に重要なのは「測る」です。

　時間や長さや重さなど、科学では様々なものを測ります。少し堅苦しく「測定」とも言います。また、測定のための装置は、測定装置とか実験装置などと呼ばれます。（自然）科学者たちの多くは、測定装置を用い

て自然現象を測定することで実験を行い、観察力と推論力(および知識)を総動員して自然の背後に潜む自然法則(law of nature)を推察し検証するのです。この営みには、さくら2017年2月号で書いた理論と実践の問題が複雑に絡み合って存在していることが分かります。と思います。

測定という行為の中でも、観察に重きを置いた測定のことを「観測」と言います。観測の中でもっともポピュラーなのは天体観測です。天体観測は、望遠鏡という観測装置を用いて行います。先ほど述べた通り、ガリレオ、ケプラー、そしてニュートンはそれぞれガリレオ式、ケプラー式、ニュートン式と呼ばれる望遠鏡を発明しています。望遠鏡の種類には他にも色々なものがあるので、インターネット等で調べてみると面白いと思います。ボーイ隊では、1年に1回三鷹の国立天文台で行われる観望会に参加していますが、そこで体験できる望遠鏡はカセグレン式です。せっかくの観測という実践の場ですから、それまでに、スカウトハンドブックや学校の教科書、あるいは『Scouting for Boys』を読んで天体や望遠用についての理論を学んでおくとうれいですね。(つづく)

RS隊 神田貴史

新しい世界に足を踏み入れる、それはとても勇気のいることである。なぜなら新しい世界、すなわち自分にとって未知の世界に対して、私たちは不安を感じるからだ。しかし、いや、であるからこそ、私たちはどんどん新しい世界に踏み出していくべきだと私は考える。その理由を、ここに書こうと思う。

私たちの周りには色々な「世界」があるが、それらは外から見たときと中から見たときとで違うことが多い。私は大学受験において2度のチャレンジ、つまりいわゆる浪人生を経験した。浪人をしたことが無い人や大学受験に縁がなかった人にとって、浪人のイメージは決して良いものとは言えないだろう。

去年の私も例外では無かった。

浪人が決まった瞬間はまるで人生が終わったかのように思えた。しかしそれは、浪人生という「世界」を知らなかっただけに過ぎなかったのだ。美味しいご飯を食べたいと思うし、眠い日もあるし、サッカー日本代表の試合を観ることもある。普通の生活の延長に勉強があるだけで、勉強で行き詰まることはあっても想像していた息苦しい生活では無かった。浪人生の「世界」が悲惨に思えたのは、私が勝手な想像をし

ていたからに過ぎなかったのだ。

ボーイスカウトは私達が新しい「世界」に踏み入れるのを後押ししてくれる。少年や青年にとっての「世界」は学校とその他少しの習い事がほとんどで、それ以上にバラエティに富んだ展開をすることはなかなか難しいけれども、ボーイスカウトに入団することはそれ自体が新しい「世界」の獲得である。そしてそれ以上に、ボーイスカウトで経験を積むことは、さらに豊かな「世界」の獲得につながっている。キャンプ活動を通してアウトドアをする、清掃奉仕を通して社会に貢献する、班活動を通して人を助ける、何気ないボーイスカウトの活動が自分の世界を知らぬ間に広げていることに、ローバースカウトになった今気付かされる。ボーイスカウトに入っていなかったならそれらは知り得なかった「世界」かもしれない。知らない「世界」を外から想像し決めつけることは非常に愚かで、大変にもったいない。

新しい世界に足を踏み入れること。少しの勇気と実行力さえあれば、その1歩は踏み出せる。難しいと思うのはその「世界」を知らないからだ。あなたがもしボーイスカウトに入団しているのであれば、その1歩の踏み出し方は既に知っているはずだ。積極的に新しい「世界」に踏み出そう。知らない事を知る、という事がどれだけ素晴らしい事かは、振り返ってみた時に気付くはずだ。



会議報告

育成会役員会 3月13日(月) 9:30~11:30 等々力出張所まちづくりセンター活動フロア

- * 入団説明会の報告と反省
- * 上進式、会計監査準備確認
- * 次年度役員選出について
- * 総会準備確認
- * その他

団会議・団委員会 3月24日(金) 20:00~ 奥沢地区会館第2会議室

★ 育成会総会について
5月13日(土) 1:30 pm~
場所未定(尾山台小学校オープンスペース)

- * 「活動費集金のお知らせ」を総会資料に同封したい(育成会より)
- * 「休隊届」について・・・休隊スカウトがいる場合は隊長が「休隊届」を団委員長と育成会会計に確実に送付する

★ 入団説明会(3/12) 14家族の参加がありました
既に2名(カブ隊1名、ビーバー隊1名)申し込みがありました

★ 総会資料作成のための資料提出締切:4/16
活動報告・活動計画、決算及び次年度予算
資料印刷:4/25

★ 上進式: 4月2日 9:00 集合 奥沢区民センター
9:30~ セレモニー

★ キャンポリーについて

- * 保護者の方の参加について
- * 各隊の参加スケジュールなどの詳細
- * 現地(長者の森)下見 4/8(土)

会議予定

4月2日(日) 会計監査 9:00~14:00~ 奥沢区民センター第3会議室
4月21日(金) 団会議・団委員会 20:00~ 奥沢地区会館第2会議室
4月25日(火) 育成会役員会 9:00~ 等々力まちづくりセンター
総会準備・・・資料印刷・送付

4月は隊費の集金月です。
10日までに、お子様(スカウト)の名前で、じぶん銀行への振り込みをお願いいたします。
詳細は5団ホームページでご確認ください。